

九州大学附属図書館報

# 図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 38, No. 2 (2002)

## ——【目 次】——

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 本の無い図書館の新しいサービス.....                | 20 |
| 慶北大学と協定締結.....                      | 21 |
| 『韓国歴代文集叢書』—韓国文化研究のための宝庫3000冊— ..... | 22 |
| 九大が所蔵する記録史料の状態と活用(2) .....          | 24 |
| 海外図書館視察報告.....                      | 26 |
| 人事異動・図書館日誌.....                     | 28 |
| 自著紹介.....                           | 30 |
| 本学関係者寄贈図書.....                      | 33 |
| 新図書館だより(新連載・第1回) .....              | 34 |



空間モデル - 配置計画による新図書館の位置  
(『九州大学新キャンパス・マスタープラン2001』より)

# 本の無い図書館の新しいサービス

大量の本と雑誌を所蔵して閲覧サービスをするのが図書館サービスであった時代は過ぎ去り、電子ジャーナルなどの電子図書館時代にふさわしい新しいサービスをするのが図書館に求められ始めている。医学分館で開始あるいは準備中の3つの新しいサービスを紹介する。



附属図書館医学分館長  
野瀬 善明

## 1 情報サロン

40台のインターネット端末および電子ジャーナル、電子図書（教科書、辞書、人体解剖図 etc）、医療情報データベース（遺伝子、症例 etc）、医学・医療関係ソフトパッケージを整備して、24時間自由に利用できる“情報サロン”を提供している。

ライブラリアンには研究者と学生に情報サービスする能力が求められている。医療情報が広範囲に電子化され、情報検索が即時化されても、何を学び、何を調べ、どのように情報を活用すれば良いかの能力は若い研究者と学生には依然として不足している。医療情報を最大限に活用することをサポートできるライブラリアンが存在するか否かは、大学の活性度を左右する大きな因子のひとつとなろう。

## 2 医療情報発信

九州大学は地域の人々に向けて医療情報を発信して研究成果を還元しようとしている。また世界に向けて学術情報を発信して国際交流をしようとしている。診療と研究から生まれた二次情報を、臨床家と研究者が自分で適切かつ持続的に情報発信することは実質上、無理である。情報発信サービスを担当できるライブラリアンが居る大学は、高く社会評価されよう。

## 3 自立学習

自立精神を伸ばすために個人学習の机スペースを従来より広くとり、多数の資料を広げてインターネットを活用しつつ、学習できるようにする。また集団学習する室をつくり、静かに独りで読書するのではなく、伸び伸びと意見を述べ合う自立学習室とする。

学生は秀才で素直で明るく上品である。その一方で、医学・薬学・歯学を学ぶことを職業に選んだ目的が希薄で、学生の多くは何をライフワークとすることを考えたことが無い。従って医学を職業とする者に求められる生命へのやさしさとおもいやりと呼び醒まないと、精神的バックボーンが無いままに医学を学び、大学を去って行くことになる。自立していない学生を自立させる学習の場が、大学の中にひとつ在るべきであろう。

経験と知識の豊富な先輩、あるいは異業界で活躍中の良き指導者をボランティアとして募り、学生に生きた実践教育をして頂く。授業の補足や医師免許などの医療職国家試験勉強ではなく、例えば自らのライフワークを述べることで聴き手の若者たちの感動を呼び起こし、ライフワーク探しと、自分が選んだライフワークを実現成就させるために今何を学習しておく必要があるかを考えることを指導する。若者たちが青雲の志を立て、大成して人類の健康と生命に大きく貢献できるように、大きく育てる場と図書館をする。（のせよしあき 医学研究院教授）

# 韓国慶北大学校と図書館交流協定締結

## - 慶北大学校中央図書館訪問・調印式 -

山口 良子

2002年7月10日、九州大学附属図書館は、慶北大学校図書館（韓国）と相互に図書館交流を推進するため交流協定締結の運びとなり、有川館長、松原教授、石井事務部長出席のもと、慶北大学校中央図書館において調印式が行われました。幸運にも、この記念すべき場に居合わせる事となりましたので、ご報告させていただきたいと思います。調印式出席にあたり、お世話になりました皆様に、心より感謝いたします。

韓国の主要な大学の一つである慶北大学校は、1946年に開校された国立の総合大学です。現在13の単科大学と9つの大学院で約27,000人の学生が学んでおり、大学としても国際交流に大変積極的だということです。図書館の蔵書数は、約175万冊です。所在地の大邱（Daegu）広域市は、人口約250万の韓国第三の都市で、古くから栄えた古都であり、教育都市としても有名なところですが、先のワールドカップサッカーの試合会場として、ご記憶の方も多いかもしれません。2003年には、夏季ユニバーシアード大会の開催が決まっており、大邱は、国際交流への取り組み盛んな土地柄と見受けられます。



< 慶北大学校中央図書館 >

調印式は、慶北大学校中央図書館の課長はじめ職員の方々が見守る中、緊張の中にも和やかな雰囲気で行われました。有川館長、金宗吉館長が署名し、協定書が交わされますと、盛大な拍手が贈られました。



< 協定書を交わす有川館長と金館長 >

調印式の終了後、質疑応答の時間が設けられましたが、「九州大学図書館における電子ジャーナルの現状について」、「交流協定を結んだことで相互利用の可能性は広がるか」など、職員の方から大変熱心な質問が続き予定の時間を超過し、交流協定への関心の深さと期待の高さを実感いたしました。

ワールドカップの興奮冷めやらぬ折り、松原教授の提案で、エール交換がなされ、温かな拍手と笑顔のあふれる中、散会となりました。

この交流協定が多くの成果を生み出し、広く評価されるものになることを祈念いたします。

（やまぐちりょうこ 生体防御医学研究所図書室）

慶北大学校図書館ホームページ（日本語）

<http://kudos.kyungpook.ac.kr/japanese/html/1-01.htm>

# 『韓国歴代文集叢書』

## —韓国文化研究のための宝庫3000冊—

柴 田 篤

さきごろ、九州大学附属図書館に『韓国歴代文集叢書』第1次～第30次、総計3000冊が完備した。第5次分まで文学部中国哲学史講座において購入されていたが、その後、大型研究資料費によって中央館に第10次分までが収蔵された。全体の三分の一であったが、昨年、韓国国際交流財団から韓国研究センターに第11・12次分が寄贈されたのに続き、更にこのたび文部科学省・大型コレクションの配分によって残りの部分が所蔵されるに至った。現在はずべて中央館に蔵められている。この叢書が全冊揃うのは、我が国では現在のところ九州大学だけである。各方面のご尽力に対し、先ず敬意を表して感謝を申し上げたい。

『韓国歴代文集叢書』は、統一新羅時代から始まって、高麗、朝鮮朝時代、更には現代にまで至る、韓国の士人・文人・学者・武人・高僧等3450人の文集を網羅的に収集して、ソウルの景仁文化社から歳月をかけて影印出版されたものである。

「文集」という場合、一個人の著述を集めた「別集」や、複数の人物のものを収めた「総集」などを包括して言うこともあるが、ここでは個人の詩賦や文章を収めた「別集」を指して言っている。本文はすべて漢詩文によるものである。韓国では古典籍の半数が文集であると言われるほど、その点数は膨大である。



本叢書は、現存する韓国最古の漢詩文集である崔致遠（856～？、新羅）の『桂苑筆耕集』（写真）を

収める『孤雲先生文集』（孤雲は崔致遠の号）から始まるように、概ね著者の号を冠した『〇〇先生文集』という題名が個別に付けられており、原本の題名の通りでは必ずしもない。影印に使用された原本は木版本や活字本の他、筆写本も多く含まれている。

「文集」は、『桂苑筆耕集』のように著者自らが編む場合もあるが、多くは著者が亡くなった後に、子孫や門人の手によって編集・出版される。内容は、詩賦類・書牘類・奏疏類・序跋記類・箴銘頌贊類・哀祭類・伝状碑誌類から雑著に至るまで、きわめて多岐にわたる。文集を残した人物の経歴・業績・思想から師弟・交友関係、更には社会背景までを知ることができる。その時代の言語表現の特色を窺い知ることできる。また、「文集」には出版に際しての序文や跋文の他、著者の伝・行状や祭文等が附録される場合が多い。それらの文章によって、その著者に対する評価や生前の交流関係などが分かる上に、文集が出版された経緯や社会的状況などを見ることができる。柳鐸一・釜山大学校名誉教授は、文集の編纂・刊行自体が郷村社会の制約と影響を強く受けるものであるとして、その社会的性格の意味は大きいと指摘している（『韓国民族文化大百科事典』8「文集」）。

このように「文集」は歴史・思想・文学・言語を始めとして、政治・経済・社会・教育・民俗など多方面にわたる研究にとって欠かすことのできない基本資料とすることができる。本叢書を編集した韓国文集編纂委員会の韓相夏会長は、「韓国人の歴代文集は我が先人たちの文化創造力を集約したものであるので、私たちの伝統文化を理解し研究することのできる資料が最も総合的に入っているというだけでなく、最も原初的な資料の宝庫であると言える」と述べている（後記、1998年）。

その韓国の伝統文化について考える時、とりわけ重要な要素として仏教と儒教（儒学）が挙げられる。どちらも中国から伝えられたものであるが、これらは日本の社会や文化にも大きな影響を与えたものである。本叢書所収の多くの文集には、特にこの儒教（儒学）に関する膨大な量の記述が含まれる。それは儒教が、本叢書の大部分を占める文集が書かれた朝鮮朝時代の支配教であったことによる。朝鮮朝においては儒学の中でも特に朱子学が隆盛であったが、後世、二大儒と称されるのが、李滉（1501～1570、号は退溪、韓国千ウオン札の肖像）と李珥（1536～1584、号は栗谷、同五千ウオン札の肖像）の二人の儒学者である。李退溪の文集は第80冊～第94冊の『退溪先生文集』で、『退溪先生全書』66巻等が収められており、李栗谷の文集は第210冊～第216冊の『栗谷先生全書』38巻拾遺6巻である。また、彼らの門人や交友を始め多くの儒学者の文集も収められており、朝鮮独自の朱子学の特色とその展開を理解するために必須の資料となっている。

また、本叢書に収められている歴代高僧の文集の中には、単行の著述も含まれている。例えば、第3冊は新羅僧元曉の『元曉大師文集』であるが、内容は彼が著した『金剛三昧経論』と『大乘起信論疏記会本』である。また朝鮮朝の僧である得通の『涵虚大師文集』（第202冊）には『涵虚堂得通和尚語録』『儒釈質疑論』等が収められている。

言うまでもなく儒教や仏教などの伝統思想を解明

するためには、膨大な量の文集をひもとかなければならないが、韓国や日本に現存するそうした文集をすべて直接読むことは従来きわめて困難であった。殊に筆写本に至っては、写真版以外ではほとんど目睹することのできない資料と言える。それだけに、今後この方面での研究を進める上で、本叢書出版の果たした役割は誠に大きいと言える。



更に、本叢書は韓国の歴史と文化の研究のみならず、中国や日本との交流史は言うに及ばず、東アジア全体の思想や文学を広く捉えようとする者にとっても、重要な資料を提供するものと言える。例えば、漢詩文の展開とその比較に関する研究にとっては欠かすことのできないものである。また、20世紀を生きた人々の文集も数多く収められていることから、現代史の研究にとっても貴重な史料の一部となる。

本叢書については、別に『目録』と『索引』（著者時代別・著者姓名別・文集書名別）各3冊が同じく景仁文化社から出されており、検索には便利である。今後、本叢書所収文集の細目（詩文の題目や固有名詞）のデータベース化や、影印に使用したもの以外の諸本との比較検討などがなされるならば、文集を利用した研究の進展に大いに寄与するものと思われる。過去千年を超える韓国の社会と文化とに関する研究のための重要な基礎資料がここに揃った。あとはこれらの資料を大いに活用して多様な研究を展開していただくだけである。全巻を収蔵した本学が果たすべき役割はまた大きいと言えよう。

（しばた あつし・人文科学研究院教授）

九大が所蔵する記録史料の状態と活用(2)

## シーボルト『日本』 - その1 -

宮崎 克 則

シーボルト(1796 - 1866 在日期间1823 - 1829)  
フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトは、  
1796年にドイツのヴュルツブルクで誕生した。彼は、  
文政6年(1823)、長崎の出島にあったオランダ商  
館の医者として来日し、翌年には長崎郊外の鳴滝に  
塾(鳴滝塾)を設け、実地診療のかたわら高野長英  
ら数十名の門下生に医学・博物学などを教え、洋学  
の発展に貢献した。彼は、日本とその周辺地域の調  
査・研究を行い、ヨーロッパにおいて紹介する。



シーボルト『日本』  
シーボルトは、帰  
国後『日本』を出版  
し、ヨーロッパに日  
本を紹介した。『日  
本』には、当時の日  
本国内でも重要機密  
として公表されてい  
なかった伊能忠敬の  
調査に基づく日本地  
図などが紹介され、

また農村や都市の風景・風習、さらには日本の武器  
や軍事訓練の様子などが詳細に絵画として描かれて  
いる。

文政11年(1828)、シーボルトが帰国しようとし  
たとき、暴風雨が長崎を襲い、座礁したハウトマン  
号から日本地図など国禁の品々が発見された(シー  
ボルト事件)。シーボルトの弟子や友人は刑に処せ  
られ、彼自身も国外追放となり、1829年12月に長崎  
を離れる。

医学分館の『日本』 医学分館の3Fにある展示  
室に、大正15年に医学部法医学教室が購入した『日  
本』の一冊が展示されていた。それには十数枚の図  
版があるだけであり、「もっとたくさん他にあるは

ず」と調査を依頼した結果、書庫の奥から残りの図  
版が大量に見つかった。

### 『日本』図版の第1分冊



『日本』に収録された図版は、総数367枚であるが、  
医学分館に残る分は4枚ほどが所在不明となってい  
る。それらは、図版の通し番号も提示すると、

113号 京都の全景

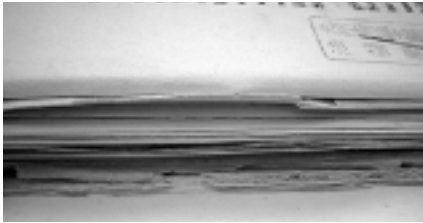
123号 江戸の全景

361号 蝦夷海峡 - 最上徳内の原図による

367号 付図 日本人の作成による原図および天  
文観測に基づく日本地図 - 九州、四国および本州  
である。

『日本』は、1832年から1851年の20年間にわたり、  
14回に分けてオランダのライデンで出版され、配本  
された。シーボルトの自費出版で出された『日本』  
は、当初は200部ほど、最後は60部が出されたにす  
ぎなかった。

当時の出版は、製本されて出されるのではなく、分  
冊で出され、後に購入者がそれを製本所に持ち込み、  
自分が気に入った表紙を付けて製本するのが一般的  
であった。医学分館の『日本』は、初版本であり、  
しかも製本されていない。そのことは、次頁の写真  
が如実に物語っており、一枚一枚に製本された形跡  
がない。



シーボルト『日本』の初版本を所蔵するのは、近くでは福岡県立図書館や長崎県立図書館などである。しかしそれらは製本されている。左の写真

は東京の（財）永青文庫が所蔵する『日本』であり、丁寧に装丁されている。

九大本の『日本』は未製本であり、出版当時の様子をそのままに伝えている、世界的にも数少ない極めて貴重な例であると思われる。

#### 見つかった当初の状態



『日本』は決して良好な保存状態にあったとはいえず、ビニール袋に入れて保管されているにすぎなかった。現在、医学分館によって適切な措置が講じ



られ、ばらばらだった図版の順序も整理され、通し番号も付された。

平成14年8月、本学の50周年記念講堂にて、『日本』図版を順に並べ替える作業を行った。大量だったため、記念講堂のステージをはみ出すほどであった。並べ替えた後は、今後の混乱を防ぐために、通し番号を付けた和紙を、それぞれ裏に貼り付けた。

現在は、分冊ごとに中性紙の箱に入れ、図版1枚ごとに紙を挟んで保管している。カビのある図版もあり、それらを除去する作業もしなければならないが、予算上の問題から今後の課題として残っている。

以下、『日本』の中からいくつか紹介しよう。

#### 日本境界略図（通し番号1）



当時、ヨーロッパでは日本の地理の全貌をつかんでいなかったため、シーボルトは江戸へ行ったとき、幕府天文方の高橋作左衛門景保から精密な日本地図を入手した。いくつかの地図はシーボルト事件において押収されたが、これはシーボルトによってヨーロッパへ持ち帰られ、『日本』に紹介された。

この地図において、北海道の姿は、伊能忠敬の実測地図を採用し、樺太の部分は1808年に派遣された間宮林蔵の探検の成果を取り入れている。原図は高橋景保の作であり、樺太を島とする間宮海峡が記入されていた。その名称をシーボルトも採用し、「Mamiya (seto) 1808」として広くヨーロッパに伝えた。伊能図などをもとにした日本地図は、国内でも公開されていなかったから、ヨーロッパの方が早く日本の形状を知っていたことになる。（以下次号）

（みやざきかつのり 総合研究博物館助教授）

# 海外図書館視察報告

大村 明 美

平成14年9月11日から19日までの9日間、平成14年度「九州大学創立八十周年記念事業国際学術交流基金による事務系職員の海外派遣」により、ドイツ・英国を訪問する機会を与えられた。ドイツではミュンヘン、英国ではロンドンを基点に計8機関を訪問した。ここでは、Bayerische StaatsBibliothek(ミュンヘン)とBritish Library of Political and Economic Science(ロンドン)について紹介する。

## Bayerische StaatsBibliothek バイエルン州立図書館

Bayerische StaatsBibliothek(以下BSB)は、ドイツ、バイエルン州の州立図書館で、その歴史は1558年に設立されたヴィッテルスバッハ宮廷図書館にさかのぼる。州の中心的な図書館である(州で出版された図書は2部納本することが法的に義務付けられている)とともに、ドイツ語圏最大の学術図書館のひとつである。図書館は700万冊以上の蔵書を有し、インキュナブラや地図、写真、マニュスクリプト等も含めた貴重なコレクションも所蔵している。特に歴史・音楽分野の資料や東・南東ヨーロッパ、中東・東アジアに関する資料に重点を置いている。弾痕が残されたヒトラー所有の地球儀等、歴史的な資料も所蔵する。現在40,000タイトルに及ぶ逐次刊行物・新聞を受け入れているが、これはヨーロッパではBritish Libraryに次ぐ規模である。身分証明書等を提示しての登録により利用が可能で、近隣のLud-

wig Maximilians Universität Münchenなど多くの大学生らにも利用されている。

OPACはBSB-OPAC1501-1840, 1953-2002(<http://opac.bsb-muenchen.de/JOPAC/extern.html>)として公開されている。1953-1981年受入分については、著者名・書名・出版年のみ項目指定の検索が可能であるが、他の項目もフリーテキストとしてデータを収録しており、オリジナルの目録カードの画像データも表示可能である。書庫等に収納されている資料の利用を希望する場合は、3日前までにWeb上から申し込むと来館時にすぐに受け取ることができる。資料は図書館内の所定の書架に移されているので、利用者はセルフサービスで資料を取り出し、カウンターで貸出手続きを行うだけである。



BSB-Reading Room のひとつ



Subito 検索画面

複写申込もOPAC上から可能である。また、ドイツにはsubitoという文献複写サービス・システムがあり、これを通してBSBをはじめドイツ国内の複数の図書館に対し国内外から依頼が可能である。

郵送やFAXのほか、PDF ファイルを e-mail 添付で受け取る方法もある( 詳細は <http://www.subito-doc.com/> を参照 )。BSB の館内でも、委託を受けた業者が複写業務を集中的に行っていた。

歴史的な資料を多く所蔵しており、資料の電子化や展示会に取り組むなど、精力的な活動が印象的であった。

## British Library of Political and Economic Science

ロンドン市内に位置する大学 London School of Economics and Political Science の図書館は、1896年に設立され、British Library of Political and Economic Science の名称で知られる( 以下 LSE )。毎日平均して約4,500人の利用者が訪れ、学外からも約11,000人の利用登録がある。蔵書の95%は開架式で自由にアクセス可能である。19世紀のパンフレット類、貴重資料、政府刊行物のコレクション等が開架となっている。約400万冊の蔵書、31,000タイトルの雑誌、さらに3,000タイトルの電子ジャーナル等の電子情報を提供している。資料の遡及目録登録は、一部の資料を残して、2003年末には完了する予定である。興味深いことに、九州大学で作成しているものと同様のカード目録のイメージデータベースを公開している。

Lionel Robbins Building と称される建物は2001年に数百万ポンドをかけて改装したばかりで、吹抜の中央にエレベータと螺旋階段が設置され、全館を見渡すことができる。さらに1階床の大部分が取り払われたため明るく開放的になった地下1階には、学生用のPC( ID・パスワードが必要 )が整備され、ログイン不要で検索等に利用可能なビジター用のPCと合わせて、490台を数え、226のネットワーク端子も設置された。

改装の際には、18ヶ月にわたり市内の仮スペースへ一時的に移転し、2度資料を移動させる作業を経験している。改装工事が完了した図書館への再移転

にあたっては、利用者の不便を最小限に抑えることに配慮し、利用者が必要とする資料がどちらの建物にあるのか、移動・整理中なのかといった状態がWeb上で確認できるようにするとともに、全面閉館1日のみで2001年11月27日開館するに至った。

蔵書構築に関しては、1995年以降方針をWeb上に公開し、学部との意思疎通、他の図書館との有効な協力関係の構築にも役立てている。高価な資料の購入に際しては、例えば現在交渉中であるが、British Library とのコラボレーション計画もある。

除籍についても、毎年コース・コレクション( 複本等 )や、参考図書で古い版であったりオンラインで入手可能であったりするため不要と判断されたものを中心に処理している。



LSE - 図書館の入口外観

英国の多くの大学図書館では共通するようだが、貸出中の図書でも他の利用者から予約があった場合、貸出期間が短縮される( リコール )。また資料を延滞した場合、その期間に応じて罰金を支払う。

授業に関連した資料のリスト Reading List も学部へ要請し、図書館がWeb上で公開している。今後教官が直接アップロード、メンテナンスできるシステムへ切り替える予定である。

さらに、英国の大学図書館では、学生が授業に関連して必読とされる資料をコースパックとして販売することが多い。LSEでは、従来から紙媒体で提供していたこのコースパック及び試験問題を、2001年以降電子媒体で提供している。それ以前は図書館からCLA( Copyright Licensing Agency )へ論文ごと

に著作権許諾を申請していたが、2001年以降、Heron (Higher Education Resources on Demand) が各資料の著作権のクリアと電子化を一括処理する体制となっている。Heron は、英国で急速な IT 化に対応するため国の助成を受けて立ち上げられた e-Lib プロジェクトのひとつとして始まり (LSE も参加) 1999年には試行サービスを開始し、現在は Ingenta の傘下で事業を発展させている。

こうした図書館のシステムは、大学の事務システ

ムと統合的に構築されている。例えば学生データも共有され、学生証と図書館利用者票が共通の磁気カードで発行されている。現在のところパスワードの発行には図書館の窓口へ来館する必要があるが、今後オンラインでの申込も整備する予定である。大学全体として、上述のサービスを包括した、いわゆる e-Learning を志向したサービスを展開していくということであった。

このように今回の訪欧では、九州大学附属図書館での今後のサービス充実に参考になる事例を多く見つけ、貴重な経験を得ることができた。最後になりましたが、訪欧にあたり、多くの方のご助言・ご協力をいただきましたことに、心からお礼申し上げます。

(参考)

Bayerische Staatsbibliothek : <http://www.bsb-muenchen.de/>

British Library of Political and Economic Science : <http://www.lse.ac.uk/library/>

(おおむらあけみ 附属図書館情報システム課)

## ● 人 事 異 動 ●

(平成14年7月から平成14年10月)

(中央図書館)

- 7. 1 詫間沙由香 庶務掛事務補佐員 (採用)
- 9. 4 松尾 美栄 (庶務掛) 任期満了退職
- 9. 5 海津佳寿美 庶務掛 (職務復帰)
- 10. 1 西村 理絵 電子情報掛長 (併任)
- " 古賀 千明 図書情報第二掛主任 (昇任)
- " 松石 健祐 図書情報第一掛 (採用)
- " 大村 明美 データベース掛 (情報管理課図書情報第一掛から)

(六本松分館)

- 10. 1 吉松 伸恵 (目録掛) 京都大学教育学部図書掛へ
- " 宮地 健士 目録掛 (閲覧掛から)
- " 平良 香 閲覧掛 (採用)

(経済学部)

- 9. 6 中村 綾 (図書掛) 任期満了退職
- 9. 7 堀 優子 図書掛 (職務復帰)

(情報基盤センター医学分館分室)

- 4. 1 大瀧 礼二 鹿児島大学附属図書館桜ヶ丘分館情報サービス係長へ

## ● 図書館日誌 ●

(平成14年7月～平成14年10月)

- 7. 2 運用検討 SWG (中央図書館)
- " 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会 (学術総合センター)
- 7. 3 外国雑誌センター館会議 (学術総合センター)
- 7. 8 館長会議、附属図書館商議委員会 (中央図書館)
- " 平成14年度大学図書館職員長期研修 (文部科学省) (～26日)
- " 平成14年度第1回情報ネットワーク担当職員研修 (国立情報学研究所) (～11日)
- 7. 10 韓国慶北大学校訪問 (交流協定調印) (有川館長、松原教授、石井部長、山口)
- " 情報検索講習会 (文献の探し方) (中央図書館) (～10月2日)
- 7. 11 韓国ソウル大学校訪問 (有川館長、松原教授、石井部長、山口)
- 7. 12 中国教育部アジア・アフリカ処長、同副処長、駐福岡中国総領事館領事来館
- 7. 16 新図書館検討 WG (中央図書館)
- " 医学分館運営委員会 (医学分館)
- 7. 17 全学図書系掛長会議 (中央図書館)
- 7. 24 電子ジャーナルアクセスツール WG 設置準備会 (中央図書館)
- 7. 25 六本松分館運営委員会 (六本松分館)
- 7. 27 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会 (長崎大学)
- 8. 26 中央図書館検討専門部会 (中央図書館)
- 8. 28 平成14年度図書館等職員著作権実務講習会 (広島大学) (～30日)
- " 第2回ラテン語研修会 (中央図書館)
- " 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会 (西地区) (大阪大学) (～29日)
- 8. 29 資料保存研修会 (中央図書館)
- 8. 30 電子ジャーナルのリンク整備及び利用案内 WG (中央図書館)
- 9. 3 多言語目録システム説明会 (中央図書館)
- 9. 4 新図書館検討 WG (中央図書館)
- 9. 5 国立大学図書館協議会臨時常務理事会 (東京大学)
- " 平成14年度第2回組織問題検討タスクフォース (東京大学)
- 9. 6 情報リテラシー WG (中央図書館)
- 9. 11 ドイツ、連合王国の大学図書館視察 (大村) (～19日)
- 9. 12 理系図書館検討専門部会 (中央図書館)
- 9. 13 平成14年度第1回福岡地区研究会 (福岡女子大学)
- " スウェーデン、フィンランドの大学図書館、公共図書館視察 (藤田副館長、昌子) (～21日)
- 9. 25 学生用図書選定委員会 (中央図書館)
- 9. 27 第1回電子ジャーナルの導入に関する検討専門部会 (中央図書館)
- " 資料保存研修会 (中央図書館)
- 10. 3 第1回国立七大学附属図書館長会議 (東北大学)
- " 第35回国立七大学附属図書館部課長会議 (東北大学)
- 10. 4 第76次国立七大学附属図書館協議会 (東北大学)

- 10. 8 韓国居昌専門大学教授 1 名、工業科学生 10 名来館
  - " 医学分館運営委員会 (医学分館)
  - " 平成14年度第 5 回電子ジャーナル・タスクフォース会議 (東京大学)
- 10. 11 メタデータ・データベース共同構築事業説明会 (国立情報学研究所主催) (中央図書館)
- 10. 16 文系保存書庫検討会 (中央図書館)
  - " 学生用図書選定委員会 (文系) (中央図書館)
- 10. 17 全学図書系掛長会議 (中央図書館)
- 10. 21 平成14年度第 1 回総合目録データベース実務研修 (国立情報学研究所) (~11月 1 日)
- 10. 23 電子ジャーナル利用支援 WG 会議 (中央図書館)
- 10. 28 資料保存研修会 (中央図書館)
- 10. 29 第 3 回ラテン語研修会 (中央図書館)
  - " 学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会 (学術総合センター)
- 10. 30 平成14年度第 3 回組織問題検討タスクフォース (東北大学)
  - " 図書館高度情報化特別委員会 (東北大学)
  - " 国立大学図書館協議会常務理事会 (東北大学)
- 10. 31 国立大学図書館協議会著作権特別委員会 (東北大学)
  - " 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 (東北大学)
  - " 国立大学図書館協議会理事会 (東北大学)

## —— 自著紹介 ——

伊藤早苗 (応用力学研究所教授)

### 「Transport and structural formation in plasmas」

K. Itoh, S. - I. Itoh and A. Fukuyama  
Institute of Physics Pub. 1999

[ 中央図書館 427.6 / I89 / A ]

本書は、磁気閉じ込めプラズマにおける乱流と輸送現象をプラズマの非均質性に力点を置いて議論したモノグラムであり、なぜプラズマの非均質性が輸送を支配するオーダーパラメータとなりうるのか？どのようにして自己維持された揺動が亜臨界励起によって駆動されうるのか？を解説している。さらに著者らは非線形の勾配 - フラックス関係式を導出し、揺動から生じる非対称性がさまざまな種類のフラッ

クスの混合を許すことを示している。

簡単に内容を紹介すると大きく分けて二つのトピックスが扱われている。一つめは自己維持乱流に関するもので、二つめは電場によるプラズマの構造形成と遷移現象である。

このモノグラムはプラズマ物理において新しいものの見方を提出するものといえよう。ただし、プラズマの輸送理論の予備知識のない学生がいきなり読むには少し難しいかもしれない。興味のある方は、<http://bookmark.iop.org/> にアクセスされるとよい。

伊藤早苗 (応用力学研究所教授)

## 「Bifurcation phenomena in plasma」

Sanae-I. Ito and Yoshinobu Kawai  
ミドリ印刷 2002

[ 中央図書館 427.6 / I89 ]

昨年12月九州大学にて「プラズマにおける分岐現象の国際ワークショップ」開催。その講演に関する論文を伊藤早苗、河合良信両九州大学教授が編集、異分野の著者による約30編を収録。

プラズマ研究は構成要素の異なる多様なプラズマを対象として、その応用や興味に即し分科。内容は磁場閉じ込め、慣性核融合、プラズマダイオード、宇宙プラズマ、オーロラなど多彩。現象として輸送障壁形成、磁気圏擾乱現象、負イオン濃度自律振動など多様な非線形現象の最先端実験結果が報告され、緩和振動、乱流、カオスなど非線形理学としても興味深い話題を提供。

前述の現象では、温度、密度、電場など時空間的にプラズマメータ不連続な変化が観測されている。これらを「分岐」と捉えたと異領域のプラズマに統一の視点が与えられる。本書は多様なプラズマ現象を分岐現象とする新しい切り口を提示、統合的理論を目指し編集された。今後のプラズマ物理学の学術的発展を期待させ、プラズマに携わる者は勿論、他分野の研究者にも一読をお勧めしたい本。

柳川 堯 (数理学研究院教授)

## 「環境と健康データ：リスク評価のデータサイエンス」

柳川 堯著  
共立出版 2002

[ 中央図書館498.4 / Y51 ]

本書は、環境汚染物質のリスク評価に関わる考え方や方法論について、データサイエンスの立場から解説しました。究極的目標はヒトに対するリスクの評価です。しかし、もし、ある汚染物質がヒトの健康や子孫に影響を与えるのなら、ヒトに影響を与える前に、すでに微生物、魚類、動植物に影響を与えている可能性があります。その影響は、目に見えて

現れる場合もあるし、目に見えない染色体やDNAレベルの場合もあります。環境汚染物質のリスク評価は、このような観点から、微生物、魚、動植物、ヒトに関して、DNAレベルから個体レベルまでを視野にいれた総合的研究です。

本書は、イルカ(4章)、メダカ(5章)、ラット(5章)、サルモネラ菌(6章)、大豆(6章)、ヒト(7章)などに関する豊富なデータを取り上げ、確率的リスク評価の基本的な考え方や、方法論をデータサイエンスの立場から述べています。

中山宏明 (医学部名誉教授)

## 「現代微生物学入門」

南嶋洋一・水口康雄・中山宏明 著  
南山堂 2002

[ 医学分館 QW 4 / G34 / 2002 ]

本書は1987年の初版からほぼ5年毎に改訂を行い、今回第4版を刊行した。小冊子ではあるが、初版から医学部学生のための最小限の重要事項を盛り込み、さらに他の医療関係分野(歯・薬・看護・保険など)における教科書・参考書としての使用も視野に入れるという、かなり欲張った編集方針を貫き、今回の改訂に至ったものである。

本書の類例のない特徴は、3名の著者が九大医学部の同級生で、互に忌憚なく意見を交わしながら本づくりを行ってきたことである。巻頭に分担一覧があるため独立の執筆との印象を与えるが、これは初稿作成の分担に過ぎない。このことで少なくとも独断による誤り、不適切な表現、重要情報の欠落などをかなり減らすことができたと思う。

著者らはすでに第一線を引退しており、今回を最後の改訂とするつもりである。5年後に絶版とすれば、20年もの間細々ながら生き続けたことになる。著者らにとってはまことに望外であり、読者諸氏には深く感謝しなければならない。

岡田博有（理学部元教授）

## 「堆積学:新しい地球科学の成立」

岡田博有著  
古今書院 2002

[ 中央図書館 455 9 / O38 ]

堆積学（sedimentology）は20世紀の中頃、1950年代に地質学の基礎領域として確立した地球科学の新しい分野である。本書はその堆積学の研究方法を解説した教科書ではなく、地質学とともに成長し、長い準備段階を経て生まれた現在の堆積学の発達過程を追いながら、「堆積学」という分野の学問体系を示したユニークな構成になっている。

本書は次の章立てになっている。

- 1．堆積学とその位置づけ
- 2．堆積学前史 - 地質学と層序学の発展 -
- 3．地層の見方の発達
- 4．堆積岩石学の発達
- 5．地層学の発達
- 6．堆積学の成立
- 7．海洋底研究と堆積学
- 8．日本の堆積学
- 9．21世紀の堆積学

堆積学の巨人たちの肖像をできるだけ多く掲げながら、学問は人が作ることを強調した。

岡田博有（理学部元教授）

## 「Cretaceous Environments of Asia」

H. Okada and N. J. Mateer ed.  
Elsevier 2000

[ 中央図書館 456 57 / O38 ]

20世紀に最も成功し、現在も続いている国際研究組織にユネスコ主宰の国際地質対比計画（International Geological Correlation Programme, IGCP）という組織があり、毎年、50近い研究プロジェクトが進行している。本書は、1993年から1998年まで「東・南アジアの白亜紀環境変化」と題して実施された国際研究計画 IGCP - 350（代表者 岡田博有）の最終成果報告である。

本書はそれぞれの地域の代表的研究者によって、

東ロシア、モンゴル、東中国、韓国、日本、フィリピン、ベトナム - ラオス - カンボジア、タイ、インド地域の白亜紀の環境変化と古生物相、南太平洋のスーパーブルーームの影響、環太平洋地域の高圧変成帯の形成と構造環境、本研究の総括、などがまとめられている。

本書はアジアの白亜系に関する国際的視点からの最新情報がまとめられている貴重な資料である。

深田 智（工学研究院助教授）

## 「次世代エネルギーへの燃料:水素吸蔵合金による水素同位体の分離技術」

深田 智著  
エヌティーエス 2000

[ 中央図書館 436 / F71 / A ]

次世代エネルギー媒体と考えられる水素、あるいはその同位体の重水素、三重水素の利用技術に関心が向けられています。本書は、水素エネルギー利用の分野に向けて、水素の貯蔵、回収、供給、そしてエネルギー変換装置のための各種水素吸蔵合金と合金充填層のデータをまとめ、核融合炉工学分野に向けて、水素吸蔵合金を用いた水素同位体分離について、実験と解析の成果をまとめたものです。

この分野の概論書はいくつかありますが、まだ水素吸蔵合金が社会的に広く利用されているわけではないので利用技術に関する専門書は少なく、これまでの研究成果を知る上で役にたつ書だと思います。



## 本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

### 中央図書館

山内昭人（人文科学研究院教授）

「リュートヘルスとインタナショナル史研究：片山潜・ポリシェヴィキ・アメリカレフトウィング」（Minerva 西洋史ライブラリー；15）

山内昭人著

ミネルヴァ書房 1996

[ 中央図書館309 .02 / Y39 ]

柳川 堯（数理学研究院教授）

「環境と健康データ：リスク評価のデータサイエンス」（データサイエンス・シリーズ；9）

柳川 堯著

共立出版 2002

[ 中央図書館 498 4 / Y51 ]

伊藤早苗（応用力学研究所教授）

「Bifurcation phenomena in plasmas」ed.by Sanae-

I. Itoh and Yoshinobu Kawai

Kyushu University, c2002

[ 中央図書館 427 6 / I89 ]

「Transport and structural formation in plasmas」

（Plasma Physics series）

K.Itoh, S.I.Itoh, A.Fukuyama

Institute of Physics Pub. c1999

[ 中央図書館 427 6 / I89 ]

岡田博有（理学部元教授）

「堆積学：新しい地球科学の成立」

岡田博有著

古今書院 2002

[ 中央図書館 455 9 / O38 ]

「Cretaceous environments of Asia」

ed. by Hakuyu Okada and Niall J. Mateer

Elsevier 2000

[ 中央図書館 456 57 / O38 ]

### 医学分館

中山宏明（医学部名誉教授）

「現代微生物学入門」

南嶋洋一、水口康雄、中山宏明著

南山堂 2002

[ 医学分館 QW 4 / G34 / 2002 ]

### 文学部

円谷裕二（人文研究院教授）

「経験と存在：カントの超越論的哲学の帰趨」

円谷裕二著

東京大学出版会 2002

[ 文学部長室 ]

# 新図書館だより

新図書館推進室



## 元岡地区新キャンパスに設置する新図書館計画の概要

元岡地区新キャンパスは平成17年後期の第一期開校を目指して着々と準備が進められているところです。附属図書館は、新キャンパスに中央（文系）図書館（仮称）と理系図書館（仮称）の2つの図書館を計画しています。新図書館計画の現時点での計画の概要を以下にご報告します。

なお、次号以降も引き続き、「新図書館だより」として新図書館計画の進捗状況を報告します。

### 新図書館の検討組織

新図書館計画は、中央（文系）図書館検討専門部会および理系図書館検討専門部会において検討が進められています。それぞれの専門部会は、附属図書館商議委員会の下に設置された附属図書館の将来構想に関する検討委員会の委員により構成されています。また、事務部門においては、新図書館検討ワーキング・グループが事務サイドからの検討を進めています。

### 中央（文系）図書館（仮称）

中央（文系）図書館（仮称）はイースト・ゾーンに設置され、九州大学附属図書館全体を統括する総合図書館として機能することになります。また、イースト・ゾーンに配置される人文科学、比較社会文化、人間環境学、法学、経済学、言語文化の各部局の学生、教職員に対するサービスを行なうとともに、センター・ゾーンに配置される全学教育施設に対応して全学教育に関連するサービスを行ないます。人文・社会科学系の図書館として、これらの分野の体系的な蔵書を備えた学習図書館、研究図書館として機能します。

また、新キャンパスのメイン・ゲート地区は、産学連携、地域連携、国際交流を支援する拠点として「タウン・オン・キャンパス」と位置付けられており、中央（文系）図書館（仮称）は、「タウン・オン・キャンパス」における学内外の学

生・研究者や地域市民の交流拠点としての機能も果たします。

今後、地区基本設計を経て、平成21年の開館を目指しています。計画では総面積約24,000㎡となる予定です。

### 理系図書館（仮称）

理系図書館（仮称）はウエスト・ゾーンの工学系地区に設置され、平成17年後期の第一期開校にあわせて開館できるよう準備を進めているところです。今後、建物の実施設計を行い、平成15年度に着工の見込みです。計画では総面積約12,000㎡（図書館部分のみ）となる予定です。

理系図書館は、主に工学、システム情報科学、理学、数理学、農学の各部局の学生、教職員をサービス対象とする図書館で、これらの分野の資料を一堂に集めた自然科学分野の知の拠点として機能することになります。

また、理系図書館は情報基盤センターと一体的な施設として建設され、情報基盤センターとの連携のもと、全学の電子図書館の機能を推進することとしています。これにより、新キャンパスにおける図書館は、体系的で豊富な蔵書を備えた学習図書館、研究図書館として機能するとともに、電子ジャーナルを始めとするネットワーク系メディアによる学術情報を、研究室等から居ながらにして利用できる環境が一層推進されます。